

清水文雄先生著書・論文等目録補遺

本目録は、「國語教育研究」第八号所載の目録に続くものである。本目録には、第八号所載に欠けているもの、およびその後発行されたものを、あわせて掲げた。
(昭和四十二年三月末日現在)

年月	題目	誌名及び書名	発行所
昭和十六年	一月 『日記文学』	むらさき	むらさき出版部
五月	能因法師伝(その三)	文芸文化	日本文学の会
昭和十七年	十一月 口訳対照更級日記(新文庫)		春陽堂
昭和二十八年	三月 艸 春 賦	読書ノート(四)	廣大付属図書館
十月	浜木綿の歌	廣大東雲広報(四)	
昭和三十三年	十月 編集後記	尚志(20)	尚志会
十二月	教育雑感	千田通信(二五)	千田小学PTA
昭和三十三年	七月 永久不変の愛情の眞実性(伊勢物語から)	広島女学院 大学新聞(三)	広島女学院 大学新聞会
昭和三十四年	三月 詩人と口笛	果樹園(三八)	果樹園社
昭和三十五年	六月 六月の賦		廣大教育学部 光葉会会報(三)
昭和三十七年	五月 後ろ姿		廣大国語国文学会会報(6)
七月	池田克美君を哭す		廣大教育学部 国語科
昭和三十八年	十月 国語国文レポートと卒業論文の方法		斎藤清衛・高藤武馬・田辺正男・原尾秀二と共編
十月	歌集『風土』を読む		垣穗(四ノ二〇)
十一月	皇至道(廣大の顔)		廣大教養(二)
昭和三十九年	三月 「はかなし」の源流(未完)		国文学叢(三)
四月	花のいのち―「転移の記録」読後感		バルカノン(二九・二〇)
五月	和泉式部統集に収録されたいわゆる「師宮挽歌群」について		国語と国文学(四一の五)
六月	更級日記(古典文学研究必携)		国文学臨時増刊号(九ノ八)
六月	あゝ佐藤春夫先生		桃十周年記念号(百二十一号)
六月	古典語ノート「はかなし」と「あとなし」と		国語展覧(八)
			右文書院 垣穗短歌会 廣大教養部 廣大国語国文学会 桃の会 尚学図書

九月	蓮田善明と「有心」	果樹園(三)	果樹園社
十月	歌自慢の人(巻頭言)	中学一年の計 画学習(七)	新学社
十月	よくみれば(巻頭言)	中学二年の計 画学習(七)	新学社
十月	聖徳太子の耳(巻頭言)	中学三年の計 画学習(七)	新学社
十月	「世を知る」ということ —古代日本文学史 の一断面—	広島大学教育 学部紀要第二 部(13)	広島大学 教育学部
十一月	付属小学校長就任にあ たって(巻頭言)	学校教育 (五六五)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
十一月	ロドリゲスへの道 —古典解釈について —土井先生から教え ていただき感銘して いること—	国語教育研究 (九)	広大教育学部 光葉会
十一月	古典語ノート(五) —「つれづれ」の 源流3—	国語教育研究 (九)	広大教育学部 光葉会
十一月	学校長就任にあたって	広大付小PT A通信(二)	広大付小PTA
十二月	「思う」から 「考える」へ(巻頭言)	学校教育 (五六六)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
十二月	菊枕抄	近代文学研究 (五)	広大教育学部 近代文学研究会
昭和四十年		学校教育 (五六七)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
一月	所思(巻頭言)	学校教育 (五六七)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
一月	発行五十周年を迎えて	学校教育 (五六七)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
二月	教師の研修(巻頭言)	学校教育 (五六八)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
三月	何を植えようか (巻頭言)	学校教育 (五六九)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
三月	「語る」の本義	学校教育 (五六九)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
三月	孫のがみ	プラタナス(三) 付小PTA	広大教育学部 付小内
四月	寒山詩の一句(巻頭言)	学校教育 (五七〇)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
四月	近時偶感—ふたりの先 覚者の発想にふれて	学校教育 (五七〇)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
五月	吉田幸一著『和泉式部 研究』(書評)	国語と国文学 (四二ノ五)	至文堂
五月	佐藤春夫先生を思う (巻頭言)	学校教育 (五七一)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
六月	三島由紀夫のこと	早稲田公論 (三三七)	早稲田大学 文学部
六月	修学旅行について (巻頭言)	学校教育 (五七二)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
六月	齋藤清衛先生 (わが師わが弟子)	教育日本新聞 (四)	教育日本新聞社
七月	動と静(巻頭言)	学校教育 (五七三)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会
七月	「近代化」の条件	学校教育 (五七三)	広大教育学部 付小内 学校教育研究会

八月 夏休みを迎えて
(巻頭言) 学校教育 (五七四)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

一月 内地文子・鈴木一雄著
「全講和泉式部日記」
を読む
国文学言語と
文芸(44)

大修館書店

八月 序にかけて(高田直著
「主体的読解学習の方
法」)

高田 直

二月 大きな親切(巻頭言)

学校教育 (五八〇)
広大教育学部
付小内
学校教育研究会

九月 吉展ちゃん事件に思う
(巻頭言)

学校教育 (五七五)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 「はなむけ」のことは
(巻頭言) 学校教育 (五八一)

九月 和泉式部の文学

文学・語学 (37)

三省堂

三月 題名について

春 蘭

広大教育学部
国語科昭和四十
年度卒業生

九月 思うこと

広島大学
国語国文学会
会報(9)

広島大学
国語国文学会

三月 春のいそぎ

春 蘭

広大教育学部
国語科昭和四十
年度卒業生

十月 自信について(巻頭言)

学校教育 (五七六)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 序(山根安太郎著
「国語教育史研究」)

プラタナス
(四)

広大教育学部
付小PTA

十一月 生への畏敬(巻頭言)

学校教育 (五七七)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 春 蘭

国文学解釈と
鑑賞(一)四

至文堂

十二月 十二月のことは
(巻頭言)

学校教育 (五七八)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 「羞恥」の感情―古典
文学研究の一視点

『国語科教育
の研究』

教員養成学部
教育研究会
国語教育部会

十二月 「生いたちの記」
(おすすめしたい本)

学校教育 (五七八)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

四月 漱石のことは(巻頭言)

学校教育 (五八二)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

十二月 「サド候爵夫人」を観る

近代文学研究 (六)

広大教育学部
国語科
近代文学研究会

五月 母(巻頭言)

学校教育 (三八三)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

昭和四十一年

一月 おりめ・きりめ
(巻頭言)

学校教育 (五七九)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

五月 羞恥の感情
―唐木順三著
『日本の心』にふれて

教育日本新聞
(36)

教育日本新聞社

一月 子どもをどのように育
てるか

学校教育 (五七九)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

六月 つばめ(巻頭言)

学校教育 (五八四)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

七月 「われ」と「なんじ」
(巻頭言)

学校教育
(五八五)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

七月 ことばと場面

学校教育
(五八五)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

七月 花壇のほとり

広大付小PT
A通信(一)

広大教育学部
付小PTA

八月 「しる」ということ
(巻頭言)

学校教育
(五八六)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

九月 教えつつ学びつつ
(巻頭言)

学校教育
(五八七)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

九月 古典語ノート
「はづ」「はぢ」「はづかし」

国語教育研究
(一一二)

広大教育学部
光葉会

十月 二十五歳(巻頭言)

学校教育
(五八八)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

十一月 立ちどまり(巻頭言)

学校教育
(五八九)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

十二月 交通事故に思う
(巻頭言)

学校教育
(五九〇)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

昭和四十二年

一月 ことば(巻頭言)

学校教育
(五九一)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

二月 マラソンの松(巻頭言)

学校教育
(五九二)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 思い出の森(巻頭言)

学校教育
(五九三)

広大教育学部
付小内
学校教育研究会

三月 退任を前にして

プラタナス
(五)

広大教育学部
付小PTA

三月 伊東静雄のこと

近代文学研究
(七)

広大教育学部
近代文学研究会

清水文雄先生略年譜補遺

本年譜は、「国語教育研究」第八号所載の略譜に続くものである。昭和三十九年四月から、昭和四十二年三月までの三年間分を取めた。

昭和三十九年(一九六四)六十一歳

九月一日、広島大学教育学部付属小学校長に併任される。

昭和四十年(一九六五)六十二歳

十二月、郷里の広島県安佐郡高陽町下深川六五四ノ一に新築転居。旧居から芸備線をさらに二駅よった所で、太田川の支流三篠川に沿う缺村である。

昭和四十二年(一九六七)六十四歳

三月三十一日、広島大学を定年退職。